



「努力では足りないこともある。そんなときは信じることだ。」

デリック・ローズ

### 1. 今後の模試の日程

ベネッセ駿台共通マーク (10月31日(土), 11月1日(日))
全統共通プレ (11月14日(土), 15日(日))
師走共通テストプレ (12月15日(火), 16日(水))
賀茂共通テストプレ(1月7日(木), 8日(金))

模擬試験は今の自分の学力の確認や課題の確認する貴重な機会ですが残りあとわずか！！きちんと学習計画をたてて臨んでください。

### 2. 模試分析

【第1回ベネッセ・駿台マークマーク模試(9月) 数学ⅠA】

#### ○問題の傾向

前年度までのセンター試験と比較すると、「数と式」、「図形と計量」、「確率」、「整数」とほぼ全ての問題で文量の増加が確認できます。そこで！！共通試験はいかに問題文を読まないかが大事です。長い文章の中必要な情報はわずかな問題がほとんどです。長文の中から効率よく必要な情報を手に入れる技術も求められています。難易度自体は高くないので、効率よく問題を解き、全ての問題に目をつけるようにしましょう！！分からない問題はいったん飛ばしてまた後で解きなおすほうが良いでしょう。

○賀茂校生の分析と提案 ～『整数を選択すべし！！』～

下の表は第3～5問の選択問題の平均点の表です。

	賀茂校生	全国	(賀茂校生)-全国
第3問(確率)	6.31	7.84	-1.53
第4問(整数)	8.65	10.89	-2.25
第5問(図形の性質)	7.69	9.42	-1.72

賀茂校生としては、第4問(整数)の得点が最も高いですが、同時に全国平均との差も最も大きいです。これは、第1問～第5問まで全ての問題で最も大きかったです。また、以下の表を見てください。

平成30年度試行調査(大学入試センター)	
第3問(確率)	4.3
第4問(整数)	5.3
第5問(図形の性質)	4.8

	進研模試6月マーク
第3問(確率)	7.0
第4問(整数)	9.8
第5問(図形の性質)	9.8

大学入試センターによる平成30年度試行調査や6月マークの結果からも第4問(整数)の平均点がかつとも高い傾向があります。過去のセンター試験をさ

かのぼっても同様に整数の平均点をもっと高いことが多いです。また、第4問(整数)では最初の小問2問の通過率(平均点)も他の大問と比べ高いことが分かりました。マーク模試は、問題作成者の解答の流れに乗らないといけません。最初の小問でつまずとその後の問題でも失点する確率が高くなります!!

以上の理由から結論は『整数を選択すべし!!』です。なお、今回の模試では1次不定方程式を解く段階で通過率(平均点)が大きく下がりました……1次不定方程式は、ほぼ毎年聞かれる重要問題です!!教科書の問題を今一度復習してみてもは?(毎年出題されるので対策が立てやすいです。)

○最後に ~『数学のコツ』⇒『多面的に考える』~

上にも書きました通り数学では最初の小問でつまずとその後の問題でも失点する確率が高くなります!!では、最初の小問でつまずリスクを減らすには??

⇒『多面的な数学的思考力』です!!

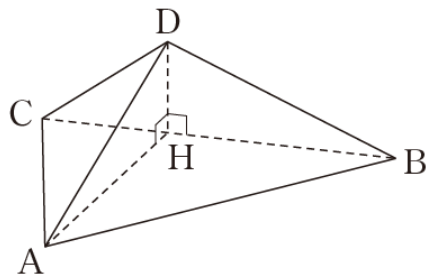
この問題は9月マーク第2問(図形と計量)で出題された問題です。

BD, AH, AD の平方(2乗)の値を求めるものでした。通過率は BD 84%, AH 4% AD 4% でした。全国平均でも AH の通過率は 11% と低いです。

おそらく、BD の導出が『三平方の定理』を利用するものでしたから、全国の高校生の頭が「AH も『三平方の定理』に違いない!!」となったのでしょう。確かに平方ですから、『三平方の定理』がセオリーです。しかしそれが上手いかなかったらどうでしょう??別の方法を考えるしかないですね!!

このように一つの問題に対し、複数のアプローチで問題を考察する力を『多面的な数学的思考力』と言います。この力こそ皆さんが共通試験を突破する鍵となるのです!!

『多面的な数学的思考力』を鍛えるには、問題に対し常に別解を考えることが一番です。そのためにはマーク模試を解いて答え合わせをするだけでは不十分です。是非 記述の問題を解いてみましょう!!その問題を通して皆さんの数学の見方や考え方を深めていってください。そしてたくさん質問に来てください。一緒に頑張りましょう!!



◎ 第1回ベネッセ・駿台マークマーク模試（9月）（地学基礎）

今回の模試では、例年と比べると出題方法が変わっている。会話文の問が増加（2題）、複数の正誤問題（4問）、組合せ（5問）、組合せ以外の問題では誤っているものの選択（2問）。

大半の問題は基礎・基本を問う内容なので、例年と比べても大差はない。

ただ、組合せ問題は注意しなければならない。組合せの内容としては、確実に言い切れる内容と問題文にはヒントが書かれておらず、図表などに記載している細かい内容のものの組合せになっている。

例えば、第2問 Bの問5。

問5 次の文章中の **キ**・**ク** に入れる数値と語句の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **9**

地球では第四紀に寒冷な気候である氷期が何回もあった。氷期では海水から蒸発した水分が氷として陸地にとどまるため、海面の高さは現在より最大 **キ** m 程度低下していた。また、氷床が拡大していったため、前ページの図4中の **ク** が増加したことは、寒冷化を進行させる一因となったと考えられる。

	キ	ク
①	10	地表面の反射(A)
②	10	地球からの放射(E)
③	50	地表面の反射(A)
④	50	地球からの放射(E)
⑤	100	地表面の反射(A)
⑥	100	地球からの放射(E)

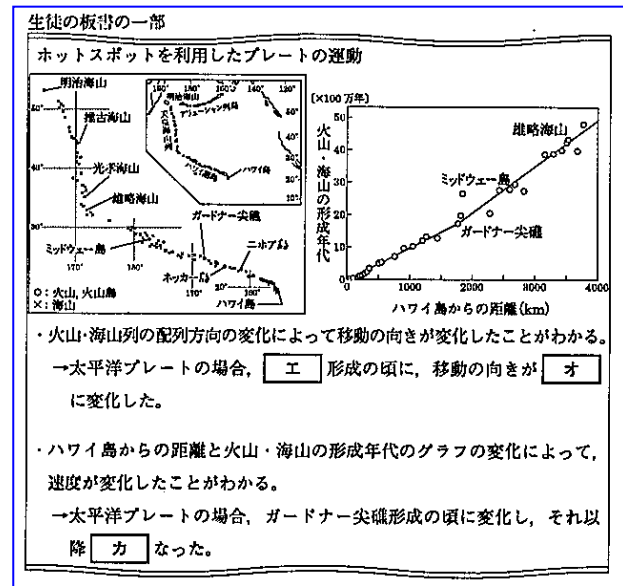
**ク** については、図4から判断はできる内容だが、**キ** については図4からは判断できない。要は【知っておかないといけない知識】ということだ。日本で最後の氷期と間氷期の境目は約6000年前にあった【縄文海進】で、この時は現在より海面が2～3m上昇していたが、約2万年前には現在よりも約130m海面が低下していたと考えられている。

このように、教科書や図表の隅々まで目を通しておかないとわからない問題が増えてきている。

第2問 Aの問2。

**エ**・**オ** については従来通りの問ではあるが、**カ** がグラフからの読み取りとなっている。しかも、縦軸が距離で横軸が時間

間なら傾きが速度ではあるが、今回は逆になっているので、縦軸・横軸に注意しないといけない。プレート速度を従来は計算から導く形式であったが、今回はグラフからの読み取りに変わり、全国的にも正答率は下がってきている。

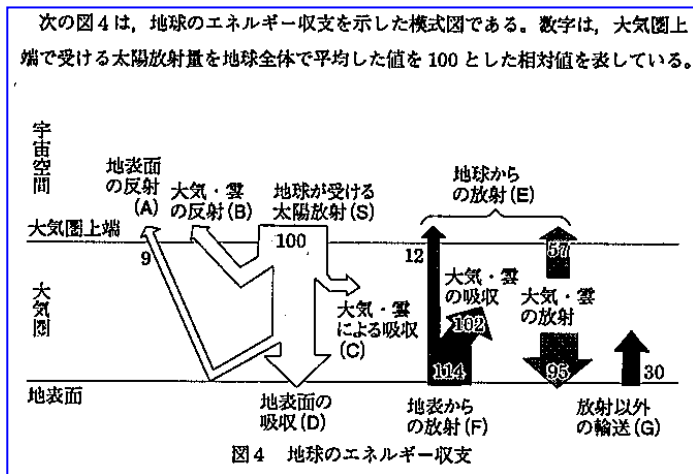


なので、計算だけではなく、グラフの読み取りもできるように対策  
する必要がある。だが、やることは距離・時間・速度の関係である。

## 第2問 Bの問3・4

この問題については、E収支に関する内容で、問3では放射に関  
する正誤問題、問4ではE収支の値を求める問題となっている。

問3では細かい内容について触れられていたので、再度【太陽放射  
と地球放射】については確認しておくこと。問4では、放射平衡を  
用いて計算する問題ではあるが、問う場所が【大気圏内】になって  
いるので、シンプルに放射平衡の式を考えるだけでは求めることが  
できず、従来のやり方では時間がかかる。これは、E収支のことを  
理解し、その上で計算していく必要がある。ここでは、【大気・雲の  
放射】に注目し、その値で大気に吸収されている総量を求めていく  
ことがポイントとなる。ただし、この問題も【E収支の放射平衡】



さえ理解  
していれ  
ば求める  
ことはで  
きるのだ  
、理解・活  
用できる  
ようにし  
ておいたら  
大丈夫。

## 第2回ベネッセ・駿台記述模試 分析

### 問題傾向

記述の日本史として、問題量は変化していない。しかし、以下の新傾向の問題は十分に注意する必要がある。記述形式であるが、共通テストを意識した問題となっている。そのためにも問題文を注視し、いかに正確に判断して解答に結び付けるかがポイントとなる。

### 解答へのアプローチ

2

問3 下線部(イ)に関して、法隆寺の金堂・五重塔については、かつて飛鳥文化期の建造物か、7世紀後半に焼失した後の再建であるかについて論争があった。次の文 a～d について、法隆寺非再建説の根拠とされたものとして正しいものの組合せを、下の1～4のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- a 法隆寺焼失を伝える『日本書紀』には、後年に記述が改められた部分が少なくない。
- b 現在の法隆寺の境内近くで行われた発掘調査で、現在のものより古い伽藍跡が見つかった。
- c 最初に建立された法隆寺の伽藍配置は、四天王寺と同じ形式であったと伝えられている。
- d 現在の法隆寺金堂・五重塔には、創建した厩戸王の時代の建築様式が随所にみられる。

1 a・c

2 a・d

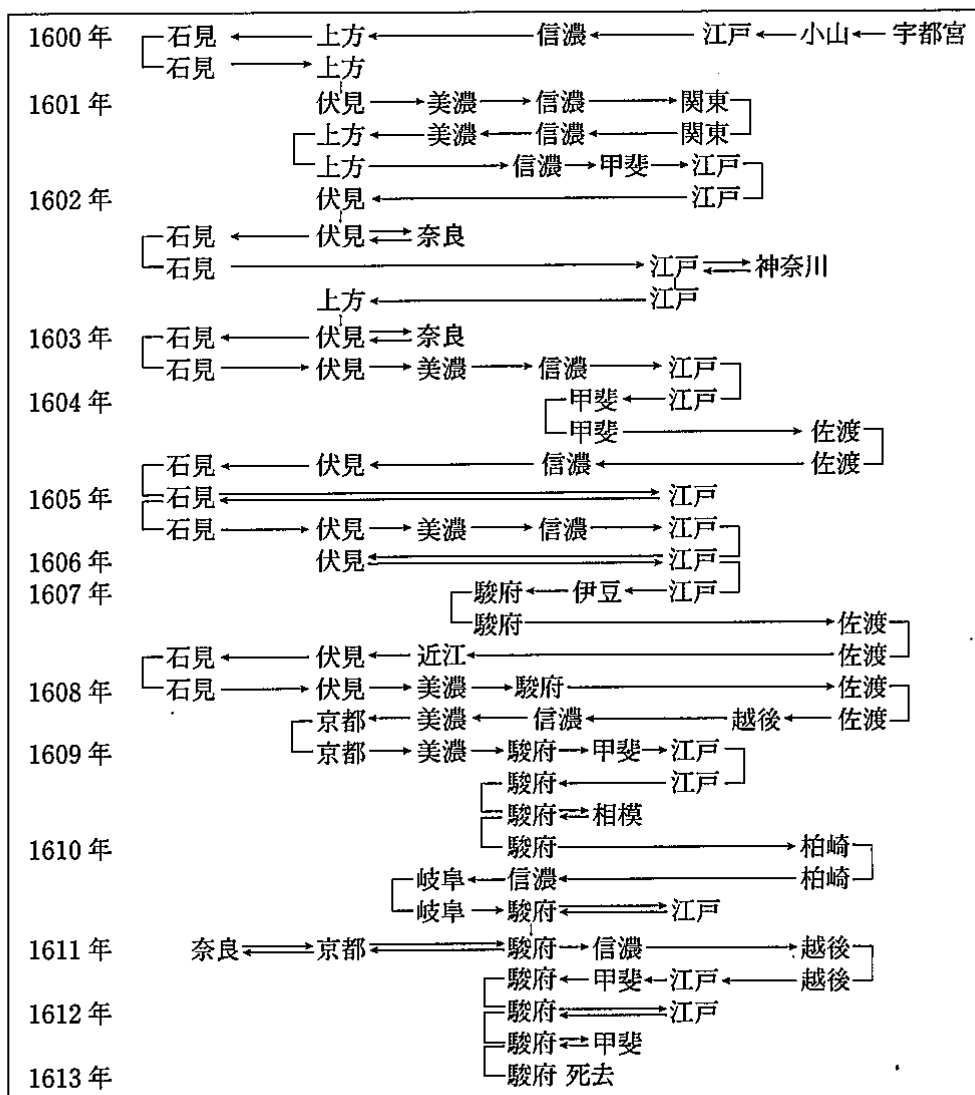
3 b・c

4 b・d

新傾向としては問の文章を丁寧に読み、問われていることを理解することが必要です。

問3では法隆寺非再建説の根拠となる文の選択を求めている。つまり、現存する法隆寺が創建時のものであることを示す文を選択すればよい。bは「現在のものより古い伽藍跡が見つかった」とあり再建されたことを意味する。また、cは「伽藍配置は、四天王寺と同じ形式であった」とあり、現在の法隆寺の伽藍配置は法隆寺式であることから再建されたことを意味する。

問4 下線部(工)に関連して、次の表は江戸幕府の年寄を務めた大久保長安の居所を一覧にしたものである。表からは大久保長安が各地でさまざまな仕事をしていたことがわかる。大久保長安の仕事に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の1～4のうちから一つ選び、番号で答えよ。



〔藤井讓治『江戸時代の官僚制』（青木書店、1999年）により作成〕

X 1607年頃より駿府に滞在することが増えていくことから、徳川秀忠の補佐役であったことがわかる。

Y 石見や佐渡をたびたび訪れていることから、鉱山の支配に深くかかわっていたと考えられる。

- 1 X 正 Y 正      2 X 正 Y 誤  
 3 X 誤 Y 正      4 X 誤 Y 誤

Xは駿府は徳川家康が大御所として居住した場所であることから、Xは誤り。

模式図化した資料から必要な要素を読み解くことが求められる問題である。図からは「石見」「佐渡」での勤務が定期的のみみられることから石見＝銀山、佐渡＝金山を読み解く。Yは正しい。

問7 下線部(オ)の理由について説明した次の文章中の空欄   に入る文の組合せとして正しいものを、下の1~4のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1870年代後半には、 ことにより、生産物が高値で売れて農家の収入は増加した。そのなかで、地租は  に対して一定額の税率によって金納したため、農家にとっては実質的な租税負担の軽減となり、可処分所得の増加につながった。

- |   |   |              |   |         |
|---|---|--------------|---|---------|
| 1 | X | インフレーションが進んだ | Y | 固定された地価 |
| 2 | X | インフレーションが進んだ | Y | 変動する地価  |
| 3 | X | デフレーションが進んだ  | Y | 固定された地価 |
| 4 | X | デフレーションが進んだ  | Y | 変動する地価  |

説明文から「生産物が高値で売れ」とあるので、物価高騰が読み取れる。また地価は定額金納であることは周知の事柄であるので、定額=固定された地価であることがわかる。内容としてはこれまでの問題と類似しているが、経済分野においては苦手としている生徒も多いので、「地租は定額金納」をキーワードとして考えてもらいたい。

問10 下線部(ク)に関連して、次の資料Ⅰ・Ⅱは産業革命期の労働問題に関するものである。

資料の内容をふまえて、下の(1)、(2)の問いに答えよ。

資料Ⅰ



資料Ⅱ

第一条 本法ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十五人以上ノ職工ヲ使用スルモノ……

第二条 工業主ハ十二歳未満ノ者ヲシテ工場ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス。但シ本法施行ノ際十歳以上ノ者ヲ引続き就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

第三条 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ、一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス。

第四条 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ、午後十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス。

- (1) 資料Ⅰは、農商務省が労働者の実態を調査し、1903年に刊行した報告書を参考にして作成したものである。その報告書を何というか、答えよ。
- (2) 資料Ⅱの労働者保護法は、資料Ⅰからわかるような労働者の実態をふまえて制定された。それに関して述べた文として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 資料Ⅰから、製糸業よりも紡績業のほうが労働時間が長く、待遇は業種によって差があったことがわかる。
  - 資料Ⅱの法は、労働者が15人以上の工場に適用され、12歳未満の者について工場での就業を原則として認めている。
  - 資料Ⅰから製糸工場では1日12時間以上の労働が行われていたことがわかるが、資料Ⅱの法では15歳未満の者や女子の労働時間を制限している。
  - 資料Ⅰから深夜業が行われていたことがわかるが、資料Ⅱの法では例外なく労働者の深夜業が禁止されている。

史料Ⅰの原典は農商務省とあることから『職工事情』である。横山源之助の『日本之下層社会』と間違わないように。史料Ⅱは1911年の工場法である。労働者保護を目的とした法律として意味あるが内容は不十分である。史料文や資料は出典が明記されている場合が多い、出典からも判断できる要素があるので注視したい。



## 学習方法

いまからでも間に合わせるためには、授業でも話しているように、政治・社会経済・外交・文化の 4 分野に加えて、原始古代・中世・近世・近代現代の 4 時代区分のなかで自分の弱点はどこかを模擬試験で確認すること。次に対策としては、苦手分野・時代に特化した学習をしていくこと。まずはこれを取組んでみましょう。その際一人で黙々とするのではなく、友達と問題を出し合ったりして、複数人で確認しあうことが大事です。また、教科書・図録を常に開ける状態にしておき、確認できるようにしましょう。これでまずは 10 点アップ。

現在、すでに 6 割から 7 割は得点できている生徒は、同様に取組んでケアレスミスをなくすことです。以外に思い込んでいることもあるので、ミスした問題をしっ

かり復習していくことが大切です。これで 5 点アップをめざしましょう。

日本史はこれから知識が増えていくほど加速度的に得点上昇が見込まれます。最後まで取り組み続けることが高得点のカギです。